

開花期が終わり、生理落果期となっています。

6月には夏肥の施用と黒点病の防除、極早生及び早生温州については着果量、肥大を確認して粗摘果を行いましょう！

1 令和8年1～5月の気象

本年の1～5月の気象を表1に示した。月平均気温は、1月は前年、平年並みに推移し、2、3月は前年、平年より高く推移した。4月以降は前年、平年より高く推移した。

降水量は1月が前年、平年より少なく、2月は前年、平年より多かった。3月は前年より少なく、平年並み、4月は前年、平年より多かった。5月は第1旬を除いて降水が少なく、前年、平年より少なかった。1～5月の合計降水量は680mmで、平年よりやや多く、前年よりやや少なかった。

日照時間は、1、2月で平年より多かった。3月は平年並み、4月は平年より少なかった。5月は第1、2半旬で平年並み、第3、4半旬で平年より多かった。第5、6半旬で平年より少なかった。1～5月の合計日照時間は958時間で、平年及び前年より多かった。

表1 令和8年1～5月の気象（館山アメダス）

月	半旬	平均気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1月		6.9	6.4	7.3	39	86	48	233	175	216
2月		8.8	7.1	6.9	146	87	31	172	154	211
3月		11.3	10.1	11.5	157	155	245	176	167	182
4月		16.6	14.5	15.4	211	156	178	154	177	174
5月	1	19.0	17.2	17.8	95	22	54	34	31	38
	2	19.1	17.7	17.6	6	24	53	29	30	17
	3	18.7	18.1	18.7	0	26	4	48	29	31
	4	21.1	18.6	21.4	0	25	24	57	30	16
	5	18.4	19.3	20.4	28	25	36	18	31	6
	6	23.6	19.8	17.6	0	31	36	38	36	12
5月平均／合計		20.0	18.5	18.9	128	153	205	223	188	120
1～5月平均／合計		12.8	11.4	12.1	680	636	706	958	860	904

注) 「5月平均／合計」及び「1～5月平均／合計」は平均気温（℃）の平均値、降水量（mm）、日照時間（hr）の合計値を示す

表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある

2 樹の生育

暖地園芸研究所における本年の温州ミカンの発芽期及び開花期を表2に示した。

発芽期は、「日南1号」、「興津早生」が4月1日、普通温州が4月3日であり、平年と比べ「日南1号」で平年並み、「興津早生」で6日、普通温州で9日早かった。前年と比べると「日南1号」で1日早く、「興津早生」で同程度、普通温州で4日早かった。

開花盛期は、「日南1号」で5月4日、「興津早生」で5月2日、普通温州で5月6日であり、平年と比べ「日南1号」で3日早く、「興津早生」、普通温州で9～10日早かった。前年と比べると「日南1号」で4日、「興津早生」と普通温州で7日早かった。

本年の着花量は、暖地園研では「興津早生」は多く、普通温州では平年並み～やや多い程度であり、樹ごとにばらつきがみられるが、概ね表年傾向である。

表2 発芽期及び開花期（暖地園芸研究所：館山市山本）

品種	発芽期（月・日）			開花期（月・日）								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	4.1	4.1	3.31	4.28	5.2	5.2	5.4	5.7	5.8	5.9	5.12	5.13
興津早生	4.1	4.7	4.1	4.21	5.6	5.3	5.2	5.11	5.9	5.6	5.16	5.16
普通温州	4.3	4.12	4.7	5.1	5.11	5.4	5.6	5.16	5.13	5.13	5.21	5.19

注1) 平年：直近過去30年間の平均値（「日南1号」は平成27年～令和7年の平均値）

2) 普通温州：「大津4号」と「青島温州」の平均値

3 6～7月の栽培管理

(1) 夏肥の施用

早生温州（「興津早生」など）、普通温州（「大津4号」、「青島温州」など）ともに6月上旬に有機配合肥料を施用する。基準量は窒素、リン酸、加里を10a当たり分量でそれぞれ、早生温州は5kg、7kg、7kg、普通温州は5kg、5kg、9kgとする。

(2) 摘果

摘果は粗摘果と仕上げ摘果の2回に分けて行う。1回目の粗摘果は、早生温州では6月下旬～7月上旬、普通温州では（樹勢が低下している場合のみ）7月上旬～中旬に葉果比10～15程度で行い、その後8月上旬～9月上旬（粗摘果の1ヶ月後）に葉果比25程度に仕上げ摘果を済ませる。着果の少ない裏年の樹では粗摘果は控え、仕上げ摘果から行う。仕上げ摘果の基準は、1果当り葉数で早生温州は25～30枚、普通温州は20～25枚である。

4 主な病気の防除（1月号と併せてご確認ください）

(1) かいよう病

かいよう病は、4～5月の防除に加え、発生園では幼果実期の梅雨時期や台風前の防除を心がける。ただし、銅水和剤はマシン油乳剤、デランフロアブルとの近接散布による薬害が起りやすいので、銅水和剤散布後、2週間は散布時期をずらす。

(2) そうか病

そうか病は、通風不良で降雨後に乾きにくい場所や、窒素肥料が効きすぎている園で発生しやすい。通風を良くし、施肥を適切に行い、樹勢を良好に管理するように努める。多発園では、後述の黒点病の防除も兼ねて、登録のある農薬による防除を行う。

(3) 黒点病

黒点病は幼果期から成熟期にかけて感染、発病する。発生源は樹上・園内及び周辺の枯枝で降雨等の水滴によって伝染するため、梅雨入り前に樹上の枯れ枝の除去や薬剤防除を行う。ジマンダイセン水和剤／ペンコゼブ水和剤の付着量は降雨のたびに減少するため、前回散布後の積算降水量が200～250mmに達したとき、または約30日後の再散布が推奨されている。

《 生育情報の発行元 》 千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

《 生育情報の問合せ 》 千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>